

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名※	公共政策論	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度 後学期	曜日・時限 ※	金曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-201
学修分野			
授業目的※	<p>公共的な課題を解決するための政策と関連する法制度を学び、政策と法制度の在り方について考察することで、社会を担う人材として必要な知識と自ら解決策を考える力を身につけることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>■公共政策の背景となる国の組織、財政制度、公務員制度など基本的な制度に関する知識を習得する</p> <p>■公共政策のプロセスや政策の評価について理解することができる</p>		
授業内容	<p>公共政策がどのようにして生まれ、実施されていくのかという公共政策学の知識を学ぶとともに、現在の日本が抱える具体的な課題について、関連する制度とその課題解決のために何が求められているのかについて検討する。</p>		
授業形態※	<p>基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。授業内で数回グループワークを求めることがある。また各授業の終わりに授業内レポートの提出を求める。</p> <p>その際、インターネット等を通じて調査をしたり、データを集計することが必要であることがあり、各自、適切なデバイス（PC・タブレット等）を用意しておくことが望ましい。</p>		
評価方法※	<p>授業内レポート、中間テスト、授業内テストにより総合的に評価する。</p>		
評価基準	<p>授業内レポート 50点 中間テスト 20点 授業内テスト 30点 S:100～90点、A：89～80点、B：79～70点、C：69～60点、D：60点未満</p>		
テキスト	<p>※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。</p>		
注意事項	<p>予習・復習を欠かさないこと。</p>		
授業シラバス	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。</p> <p>https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名※	地域福祉論	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度 後学期	曜日・時限 ※	金曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-301
学修分野			
授業目的※	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉が「コミュニティ政策」の課題のひとつであることを理解する ・ 医療や福祉のフィールドとして地域が政策的に注目されている理由を理解する ・ 地域福祉や地域包括ケアに関わる複数の専門職および公的機関と民間・地域住民のそれぞれの役割を理解する ・ 「地域」の多様な意味を批判的に理解する ・ 以上をとおして、受講生ひとり一人が自らの「コミュニティ政策」の視点を形成する 		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の目的、多様な担い手、公と私の役割を説明できる 2. 地域包括ケアという政策課題の背景、関連諸制度の基礎知識を理解でき、相互に関係づけることができる 3. 地域福祉が「コミュニティ政策」の課題のひとつであることを説明できる 4. 授業で紹介した具体的な地域の取り組み事例のポイントを言語化できる 5. 課題解決のための地域資源に関する幅広い視点をもつことができる <p>以上5点それぞれについて、他者に向けた言語化（小レポート作成）ができる</p>		
授業内容	<p>主に5つの内容を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括ケアをめぐる関連諸制度の理解 ・ 地域福祉、地域包括ケアの目的や背景の理解 ・ 住民と専門職の連携（多職種連携含む）のありようの理解 ・ 現代の医療や福祉にまつわる諸課題（社会的排除、在宅等での看取り等）の理解 ・ 対人援助の臨床的視点 <p>なお、事前事後学習の一部として、週末に開催される地域での活動への参加を推奨することがある</p>		
授業形態※	<p>基本的に講義形式で行うが、アクティブラーニングとして、必要に応じて意見を求める。DVDやビデオ等の映像資料を用いて現実の課題を理解し、そのうえで必要な政策や支援のあり方を考え小レポートの提出を求める。</p>		
評価方法※	ほぼ毎回の小レポート（100点）により総合的に評価する		
評価基準	小レポート 100点		
テキスト	特に指定しない。適宜、資料等を配布し、授業内で参考文献等を紹介する。		
注意事項	特になし		
授業シラバス	<p>「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。</p> <p>https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達教育学科
科目名※	コミュニケーション論	単位数 ※	講義 2単位
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	火曜・6時限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道德心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの基礎概念や理論を学び、理解する。 2. 教育や医療の専門職として、実際の対人場面でのコミュニケーションを理解する。 3. 学んだ知識やスキルを活用し、様々な状況における最適なコミュニケーションの取り方について考えることができる。 		
授業内容 授業形態※	<p>第1回 授業ガイダンス・コミュニケーションの概要(目標1)</p> <p>第2回 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション(目標1)</p> <p>第3回 共感的傾聴(目標1,2,3)</p> <p>第4回 アサーション(目標1,2,3)</p> <p>第5回 感情のコントロールとコミュニケーション・スキル訓練(目標1)</p> <p>第6回 説得的コミュニケーション(目標1,3)</p> <p>第7回 対人援助とコミュニケーション(目標2,3)</p> <p>第8回 子どもを相手としたコミュニケーション(目標2,3)</p> <p>第9回 教育場面におけるコミュニケーション(目標2,3)第10回 医療場面におけるコミュニケーション(目標2)</p> <p>第11回 共感的なコミュニケーションのロールプレイ(目標3)</p> <p>第12回 障害・困難を抱える人へのコミュニケーション(目標2)</p> <p>第13回 対人援助チームにおけるコミュニケーション(目標3)</p> <p>第14回 発達障害児へのコミュニケーション支援(目標2)</p> <p>第15回 プレゼンテーション・ICTを活用したコミュニケーション(目標1,3)</p>		
評価方法※	<p>授業への参加態度と提出物の提出の有無と内容、期末試験の結果などから総合的に評価する。</p> <p>授業の参加態度と提出物の記入内容 30%程度、期末試験 70%程度</p>		
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの基礎概念や理論を理解し、説明できること。 2. 教育や医療の専門職として、実際の対人場面でのコミュニケーションを理解し、説明できること。 3. 様々な状況における最適なコミュニケーションの取り方を自分なりに工夫できること。 		

テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
注意事項	全15回を、Googleクラスルームを活用したオンデマンド授業（遠隔授業）とします。 授業内容には、アクティブ・ラーニング（ロールプレイのワーク）が含まれます。
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経済学科
科目名 ※	国際経済学 II	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度後期	曜日・時限 ※	金-2
キャンパス ※		教室 ※	2-201
学修分野			
授業目的 ※	<p>本講義では国際経済学Iでは触れなかった貿易理論について詳しく解説します。なぜ貿易が行われるのか、その理論を詳しく学びます。数式や図を多用します。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（思考力、判断力、表現力等）】に資する科目です。</p>		
到達目標	<p>①国際貿易論の知識を深め、今後の課題について統計的な根拠を用いながら議論する力を養う</p> <p>②データや資料を通じて、グローバル経済について分析する力を養う</p>		
授業内容	<p>1回目 経済学入門の復習：労働生産性と比較優位</p> <p>2回目 比較生産費説①相対価格と比較優位</p> <p>3回目 比較生産費説②生産可能性フロンティアと貿易の利益</p> <p>4回目 比較生産費説③比較優位と為替レート</p> <p>5回目 比較生産費説④相対賃金と相対労働生産性</p> <p>6回目 比較生産費説⑤複数財のケース</p> <p>7回目 資源と貿易①比較生産費説の妥当性</p> <p>8回目 資源と貿易②生産要素の賦存状況と産業構造</p> <p>9回目 資源と貿易③要素集約度と比較優位</p> <p>10回目 資源と貿易④ヘクシャー＝オーリンモデル</p> <p>11回目 規模の外部経済と貿易</p> <p>12回目 規模の内部経済と貿易①モデルの仮定</p> <p>13回目 規模の内部経済と貿易②人口規模と貿易依存度</p> <p>14回目 産業内貿易</p> <p>15回目 事例研究</p>		
授業形態 ※	対面		
評価方法 ※	<p>試験（持込不可）：95%</p> <p>課題：5%</p> <p>出席は毎回取りますが、出席点自体で得点を加算することはありません。</p> <p>なお、課題に対しては授業内で全員に対するフィードバックを行います。</p>		

評価基準	
テキスト	<p>指定なし。ただし、参考書に記載されているテキストをメインに用います。</p> <p>【参考書】 P.R.クルーグマン、M.オブストフェルド、M.J.メリッツ著「国際経済学 理論と政策 上:貿易編」丸善、2017年</p>
注意事項	<p>「経済学入門I」「経済学入門II」の単位を取得していること、そして学習した内容をしっかり理解していることが本科目履修の条件です。</p>
授業シラバス	<p>https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1</p>

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	法学	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度後期	曜日・時限 ※	金曜 2限
キャンパス ※	稲毛キャンパス	教室 ※	—
学修分野			
授業目的 ※	社会生活に必然する法を理解するために必要な基本原理・原則・基礎理論、用語の学習を通して法律学(法学)への導入とし、次に社会生活における法的思考方法、法律的なものの考え方(legal mind)を具体的事例、判例などによって理解することを目的とします。		
到達目標	それは、今日、とくどくと流れる国際社会のなかで言語習慣、考え方の相違する人達が共存していくために必要不可欠な学習に他なりません。到達目標はこれらのことを理解し日々の生活にいかせることです。		
授業内容 授業形態 ※	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開します。毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。 対面形式		
評価方法 ※	平常点、確認試験で評価します。		
評価基準	平常点(授業内に適示おこなうリアクションペーパーや任意課題レポート)20%、確認試験80%で評価します。確認試験の解答は試験終了後に解説します。		
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説』八千代出版		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達教育学科
科目名※	行動科学入門	単位数 ※	講義 2単位
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	金曜・2時限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	講義室10
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道德心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<p>(1) 行動のしくみ、認知、対人・社会、健康という各テーマにおける行動の基礎的知識を説明できる</p> <p>(2) 行動に関わる意思決定過程や行動の生起・変容に関わる理論やメカニズムについて理解し説明できる</p> <p>(3) 日常生活や社会的出来事に見られる様々な行動について、行動科学の視点から議論できる</p>		
授業内容 授業形態※	<p>第1回 ガイダンス（行動科学と研究手法）（目標1）</p> <p>第2回 行動のしくみ（1）；行動の生物科学的入門(目標1,2)</p> <p>第3回 行動のしくみ（2）；行動の動機づけと学習(目標1,2)</p> <p>第4回 行動のしくみ（3）；進化心理学(子育ての視点から)(目標1,2,3)</p> <p>第5回 認知（2）；マンガの認知科学（マンガの読みと理解の認知過程）（目標1,2,3）</p> <p>第6回 認知（1）；社会的情報処理と適応（対人行動と認知過程）（目標1,2,3）</p> <p>第7回 認知（3）；行動の自己制御(実行機能と非認知能力)(目標1,2)</p> <p>第8回 対人・社会（1）；対人関係(印象形成と対人魅力)(目標1,2,3)</p> <p>第9回 対人・社会（2）；対人行動(同調と内集団ひいき、リーダーシップ)(目標1,2,3)</p> <p>第10回 対人・社会（3）；集団と組織(集団の凝集性と組織規範)(目標1,2,3)</p> <p>第11回 健康（1）；感情のコントロールと精神的健康(目標2,3)</p> <p>第12回 健康（2）；精神疾患と行動上の問題(目標2,3)</p> <p>第13回 健康（3）；行動科学的アプローチによる治療(目標2,3)</p> <p>第14回 健康（4）；精神的健康増進に役立つ行動変容(目標1,2,3)</p> <p>第15回 まとめ；レポート課題のフィードバック(目標1,2,3)</p>		
評価方法※	<p>毎回の授業の提出物や参加態度（30%）、レポート課題（70%）</p> <p>レポート課題は、各担当教員ごとに課すものとする（第4回、第7回、第10回、第14回に課す予定）</p>		
評価基準	<p>(1) 授業で取り上げた、各テーマにおける行動の基礎的知識を説明できることを合格基準とする</p> <p>(2) 授業で取り上げた、行動に関わる意思決定過程や行動の生起・変容に関わる理論やメカニズムについて説明できることを合格基準とする</p> <p>(3) 授業で得た知識を基に、日常生活や社会的出来事に見られる様々な行動について、行動科学の視点から自分の意見を述べられることを合格基準とする</p>		

テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
注意事項	履修上の注意事項 「認定心理士」資格取得には必須の科目である。 各授業時のグループワークなどには積極的に参加すること。
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	情報ネットワーク概論	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度後期	曜日・時限 ※	金曜・3限
キャンパス ※	東京情報大学	教室 ※	1号館1階101
学修分野			
授業目的 ※	本講義では、ネットワークの基礎知識、利用者として知っているべき技術的内容やセキュリティ上の知識を、幅広く学ぶ。また、ネットワークやセキュリティの設定や確認の実習を通して実用的な知識を学ぶ。本講義の内容は、多くの情報処理系の資格試験（ITパスポート、基本情報技術者試験など）の必要知識の一部を成すものである。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを中心とするネットワークの基本的な仕組みを理解する。 ・ネットワークを使う上でのセキュリティの基本的な仕組みを理解する。 ・ネットワークやセキュリティの実習を通して、実用的な知識を得る。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 ネットワークの概要 <ul style="list-style-type: none"> ・LAN, WANについて学ぶ 2 ネットワーク方式とLANの基本構成 <ul style="list-style-type: none"> ・回線交換とパケット交換、LANの基本について学ぶ 3 LANの構成とイーサネット <ul style="list-style-type: none"> ・トポロジー、CSMA/CDについて学ぶ 4 無線LAN <ul style="list-style-type: none"> ・無線LANの規格とセキュリティについて学ぶ 5 通信プロトコル <ul style="list-style-type: none"> ・OSI参照モデル、TCP/IPについて学ぶ 6 IPアドレス（1） <ul style="list-style-type: none"> ・IPv4について学ぶ 7 IPアドレス（2） <ul style="list-style-type: none"> ・サブネットについて学ぶ 8 インターネット <ul style="list-style-type: none"> ・ISPとインターネットへの接続形態について学ぶ 9 WWW <ul style="list-style-type: none"> ・URL、DNS、Webアプリケーションについて学ぶ 10 電子メール <ul style="list-style-type: none"> ・メールのしくみとメールアドレスについて学ぶ 11 情報セキュリティ <ul style="list-style-type: none"> ・リスク対策、ISMSについて学ぶ 12 情報セキュリティ対策（1） <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータウイルス、ネットワークのセキュリティについて学ぶ 13 情報セキュリティ対策（2） <ul style="list-style-type: none"> ・暗号方式、デジタル署名について学ぶ 		

授業内容	14 情報セキュリティ対策（3） ・ 認証、アクセス管理について学ぶ
授業形態※	15 平常試験と総まとめ ・ 平常試験（第1回～第14回）と総まとめを行う 毎回の授業では、配布資料とテキストを使用して解説しながら、小テストを解く形式で行う。
評価方法※	小テスト、平常試験
評価基準	小テスト（理解度チェックのため毎回小テストを行う）20% 平常試験（理解度・到達度を評価するために、平常試験を行う。）80%
テキスト	「情報ネットワーク概論」 ISBN:978-4-339-02484-5 「令和06年 キタミ式イラストIT塾 ITパスポート」 ISBN:978-4-297-13184-5
注意事項	
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2024後期）、授業科目「コンピュータグラフィックス基礎」で検索

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	視覚デザイン論	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度後期	曜日・時限 ※	金曜・3限
キャンパス ※	東京情報大学	教室 ※	オンライン
学修分野			
授業目的 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を視覚に訴える形で表現し伝える視覚デザインの変遷と理論を学び、現代社会におけるビジュアル・コミュニケーションの技術と効果を理解する。 ・現代の情報メディア業界や広告業界における視覚的情報伝達のアプローチを分析する。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚デザインの理論に基づくコミュニケーションの効果を理解しメッセージを読み解くことができる。 ・レポートやプレゼンテーション、WEBデザイン等に視覚デザインの理論と表現を活かした表現を行うことができる。 ・視覚デザインに関する知的財産権と関連法について学び、情報の表現者としての自覚と高い倫理観を身につける。 		
授業内容	01.ガイダンス 視覚デザイン論の概要 02.デザインの歴史1 デザインの原点・文様 03.デジタルデザイン① Inkscape 1 04.デザインの歴史2 布・絹・民藝 05.デザインの歴史3 印刷・広告 06.デザインの歴史4 アールヌーボー 07.デザインの歴史5 ロシア・アバンギャルド 08.デジタルデザイン② Inkscape 2 09.デザインの歴史6 バウハウスとスイス・スタイル 10.デジタルデザイン③ ログ&グラフィック 11.デザインの歴史7 アールデコ 12.デザインの歴史8 アメリカ・デザイン 13.デザインの歴史9 コンピュータ革命 14.デザインの歴史10 ユニバーサル・デザインとピクトグラム 15.現代日本のデザイン 授業のまとめ		
授業形態 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドや映像資料を用いた講義をおこなう。 ・視覚デザイン制作を行うアプリケーションソフトを演習により習得する。 ・体系的なデザインの学習に基づいたデザイン制作をおこなう。 		
評価方法 ※	課題、レポート、小テスト		
評価基準	課題（①デジタル画像処理、②グラフィック・デザイン制作、③WEBサイトの企画・デザイン制作）60% レポート（視覚デザイン分野のテーマを設定し、資料に基づいた調査・考察を行う。）30%		

テキスト	指定しない。毎回の授業の資料はWebClassに掲示する。
注意事項	
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2024後期）、授業科目「コンピュータグラフィックス基礎」で検索

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	憲法	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	金曜 3限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	—
学修分野			
授業目的 ※	本講義は、憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史のなかで捉え、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくことを目的とします。		
到達目標	到達目標は憲法の原理や考え方を正しく理解し説明できることです。		
授業内容 授業形態 ※	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開していきますが、法学入門を併せて履習することが望ましいです。毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。 対面形式		
評価方法 ※	平常点(授業内に適示おこなうリアクションペーパーや任意課題レポート)20%、確認試験80%で評価します。確認試験の解答は試験終了後に解説します。		
評価基準			
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説』八千代出版		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達教育学科
科目名※	倫理学入門	単位数 ※	講義 2単位
開講学期※	2024年度後期	曜日・時限 ※	金曜・2時限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	講義室14
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し、高い道德心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.善いことを判断するためのさまざまな基準について理解できる。 2.自分がどのような倫理的基準に従っているかを検討できる。 3.現代社会における倫理的問題とその背景を理解できる。 		
授業内容 授業形態※	<p>第1回 イントロダクション：現代社会の倫理的問題（目標1・2・3）</p> <p>第2回 倫理学とはどのような学問か：相対主義と善悪（目標1）</p> <p>第3回 現代倫理の問題(1)：障害と合理的配慮、エンハンスメント（目標3）</p> <p>第4回 現代倫理の問題(2)：パターンリズムと愚行権（目標3）</p> <p>第5回 倫理学の理論的展開(1)：自分の意見をまとめるために（目標2）</p> <p>第6回 現代倫理の基本理論(1)：功利主義と社会契約論、義務論、徳倫理の比較検討（目標1・2）</p> <p>第7回 現代倫理の基本理論(2)：功利主義と社会契約論、義務論、徳倫理の比較検討（目標1・2）</p> <p>第8回 現代倫理の基本理論(3)：功利主義と社会契約論、義務論、徳倫理の比較検討（目標1・2）</p> <p>第9回 現代倫理の問題(3)：自由・平等・民主主義（目標1・2・3）</p> <p>第10回 倫理学の理論的展開(2)：自分の意見を伝えるために（目標2）</p> <p>第11回 現代倫理の問題(4)：貨幣経済と企業倫理（目標1・2・3）</p> <p>第12回 現代倫理の問題(5)：科学技術・生命・環境の倫理的問題（目標1・2・3）</p> <p>第13回 現代倫理の問題(6)：ジェンダー(1):多様性と社会的受容目標3）</p> <p>第14回 現代倫理の問題(6)：ジェンダー(2):性役割の変化と課題（目標3）</p> <p>第15回 倫理的課題に対する議論の理解と自分の主張の整理（目標1・2・3）</p>		
評価方法※	<p>授業への参加、発言等：40%</p> <p>小レポート：60%</p>		
評価基準	<p>授業中の課題、ディスカッションでの発言、小レポートで、以下の目標への到達度で評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.善いことを判断するためのさまざまな基準について理解できる。 2.自分がどのような倫理的基準に従っているかを検討できる。 3.現代社会における倫理的問題とその背景を理解できる。 <p>さらに、予習・復習の取り組み（予習・復習シートの実施と提出）も評価対象とします。</p>		

テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
注意事項	問題をより身近なものとして考えるため、授業中に発言を求めたり、小問題の記述などの作業を行ってもらうことがあります。受講にあたって特別な知識は必要ありませんが、倫理的関心がないと参加は難しいかもしれません。履修に際しては自分自身と相談してください。 アクティブ・ラーニング（ディスカッション）を行います。
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経営学科
科目名※	工業簿記Ⅱ	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	金-4
キャンパス※		教室※	308
学修分野			
授業目的※	<p>工業簿記は、製造業において適用される簿記です。</p> <p>本講義では、製造活動の記録・計算を中心に工業簿記の基礎的な内容、具体的には、製品別計算（総合原価計算）、標準原価計算、損益分岐点分析、直接原価計算および工場会計の独立について学習します。</p> <p>なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【(知識、技能)】に資する科目です。</p>		
到達目標	<p>「工業簿記Ⅰ」とあわせ、日商簿記2級の範囲を学習することにより、日商簿記2級と同レベルの知識・技術を身につけることができる。</p> <p>なお、本講義（「工業簿記Ⅱ」）では、総合原価計算、標準原価計算、損益分岐点分析、直接原価計算および工場会計の独立に関する日商簿記2級レベルの知識・技術を身につけることができる。</p>		
授業内容	<p>第1回 個別原価計算の復習</p> <p>第2回 総合原価計算①－総合原価計算の意義、種類および計算方法</p> <p>第3回 総合原価計算②－単純総合原価計算</p> <p>第4回 総合原価計算③－仕損・減損の原価計算</p> <p>第5回 組別総合原価計算 総合原価計算④－工程別総合原価計</p> <p>第6回 総合原価計算⑤－組別総合原価計算</p> <p>第7回 総合原価計算⑥－等級別総合原価計算</p> <p>第8回 中間テスト、製造業の財務諸表</p> <p>第9回 標準原価計算①－製造直接費の差異分析</p> <p>第10回 標準原価計算②－製造間接費の差異分析</p> <p>第11回 損益分岐点分析①－意義と損益分岐図表</p> <p>第12回 損益分岐点分析②－CVPの感度分析</p> <p>第13回 直接原価計算①－意義と目的</p> <p>第14回 直接原価計算②－固定費調整</p> <p>第15回 工場会計の独立</p>		
授業形態※	対面		

評価方法※	<p>期末試験70%、中間テスト30%の加重平均により評価します。</p> <p>中間テストは採点後に返却し、解説を行うことにより、受講者の理解を深めます。</p>
評価基準	
テキスト	<p>『合格テキスト日商簿記 2級工業簿記 Ver.10.0』 TAC出版</p> <p>『合格トレーニング日商簿記 2級工業簿記 Ver.10.0』 TAC出版</p>
注意事項	<p>①授業は、商業簿記の知識を前提として進めるため、商業簿記の基礎的な知識が必要です。</p> <p>②「工業簿記Ⅰ」を履修済みの学生を望みます。</p> <p>③電卓を毎回持参してください。</p>
授業シラバス	<p>https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1</p>

※は必須記入事項